

第2回 協働のまちづくりのあり方検討会

— これまでの10年の積み重ねを、次の10年の可能性へ —

2026年（令和8年）9月29日（火）

明石市 市民生活局 市民協働推進室

コミュニティ・生涯学習課



次の10年に向けて、2つのテーマを考える

テーマ① 10年後の地域のありたい姿

テーマ② その姿に近づくためには？

今回は、結論を出す場ではなく、次の検討につながる方向性とアイデアを出し合う

第1回会議で議論したことを、10年後のありたい姿へつなげる

第1回会議で話し合ったこと

この10年の成果と課題を振り返る

- ・ この10年で生まれてきた成果
- ・ この10年で見えてきた課題
- ・ 次の10年に向けて大切にしたいこと



第2回会議で話し合うこと

第1回の意見を、未来のイメージへ広げる

- ・ 10年後の地域のありたい姿
- ・ その姿に近づくために
- ・ まち協の役割とは

これまでの成果も課題も、未来への思いも引き継いで考える

今の課題に向き合い、未来への準備も進める

今を支える



活動が続けるために、担い手の負担や
運営上の課題に向き合う

時間をかけて育てる



人、つながり、地域を支える仕組みを、
少しずつ育てる

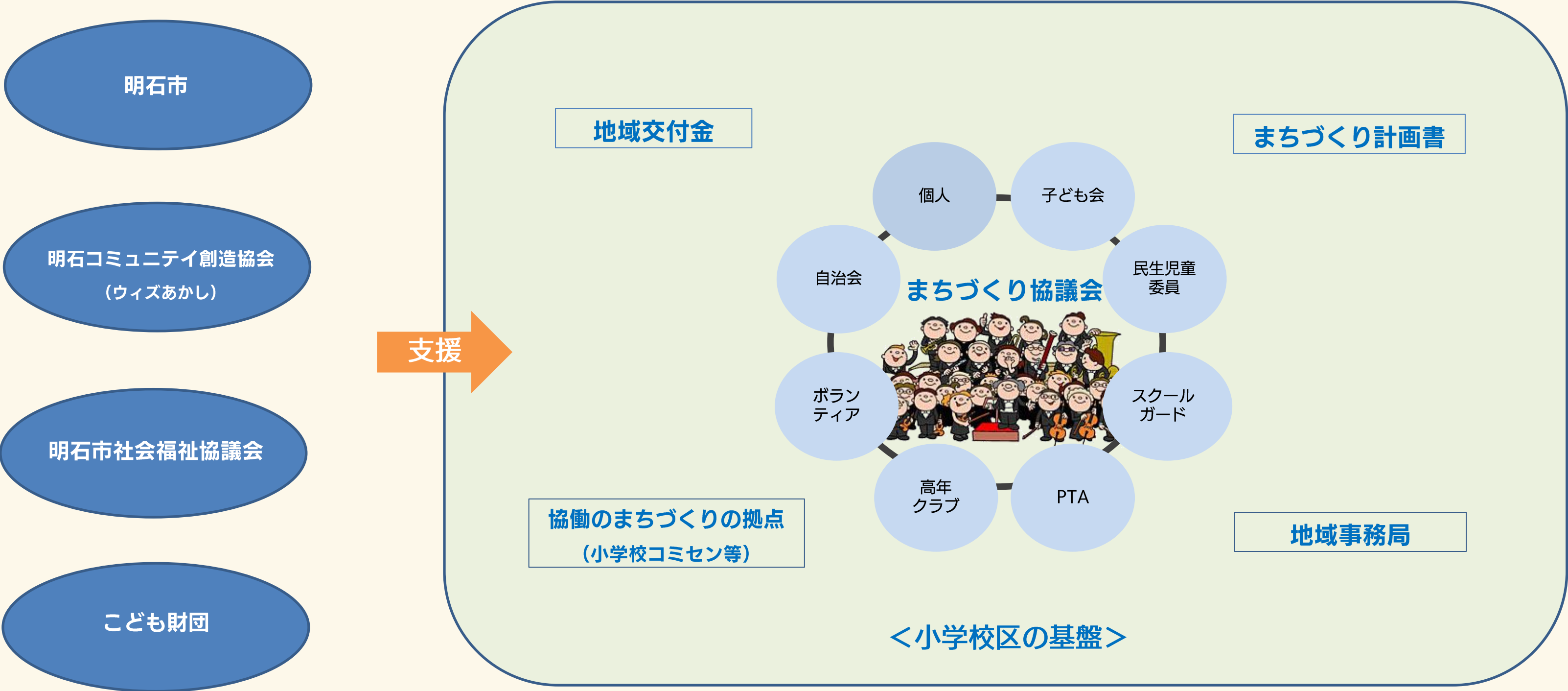
未来から考える



10年後には、今の中学生も20代に。
そのとき、どのような地域であってほしいか

未来の姿から、今続けること、変えること、始めることが見えてくる

Slide 04 | この10年で育ってきたまち協の基盤



この基盤と、多様な主体の取組が、明石のまちづくりを支えてきた

多様な主体の取組が、明石のまちづくりを支えてきた

① 対話が活動につながった

地域課題に応じた取組が生まれてきた。

② 活動同士がつながり始めた

協働の実践と共創の芽が出始めている。

③ 地域に関心を持つ入口が広がった

まちづくり以外の分野での経験も、地域への関心につながった。

④ 行政にも協働を進める力が育った

地域への伴走を通じて、経験や文化が蓄積されてきた。

⑤ 住民の取組が暮らしを支えた

日々の活動が明石の暮らしやすさを支えてきた。

⑥ 参加が次の活動や担い手につながった

活動の経験が新たな参加や役割につながっている。

まち協をはじめ、地域住民、さまざまな団体、行政の力が重なっている

関わりたい人が関わって、活動が続けられる地域へ

誰もが自分に合った形で 関われる環境が十分でない

- ☑ 活動を支える人が限られている
- ☑ 関わりたい人と活動がつながりにくい
- ☑ 多様な人が関われる視点が十分でない

人・活動・場所が見えにくく つながりにくい

- ☑ 各分野の取組が見えにくく、つながりにくい
- ☑ 地域の拠点が十分に生かされていない
- ☑ 「やってみたい」を相談できる場所が少ない

活動を支え、続けるための 基盤が十分ではない

- ☑ 活動を支える資金や仕組みが必要
- ☑ 行政内部の連携状況が十分に見えていない

地域と行政で、次の10年に向けて考えていきたい課題

※ 詳細は、別紙2「第1回協働のまちづくりのあり方検討会の意見まとめ」参照

今ある力を大切に、新しい関わり方を広げる

一人ひとりの参加を支える

- ・ 「やってみたい」を拾い、実現につなげる
- ・ 誰もが担い手になれるようにする

子ども・若者と次の世代

- ・ 子ども・若者が役割を持てるようにする
- ・ 次の世代が自分たちでつくり、楽しめる余地を設ける

人・活動・場所をつなぐ

- ・ 人と人、活動と活動をつなぐ人を増やす
- ・ 多様な場所を地域の拠点として生かす

持続可能な仕組みをつくる

- ・ 活動を持続させる資金や仕組みを考える
- ・ 行政も縦割りを超えて地域に伴走する

この思いを実践につなげるヒントが、明石の地域に生まれている

大切にしたいことを、どう取組につなげるか

魚住：避難所運営への備え

地域と市と一緒に考え、実践する



林：子どもの学び

学校・企業・まち協・市が、強みを生かす

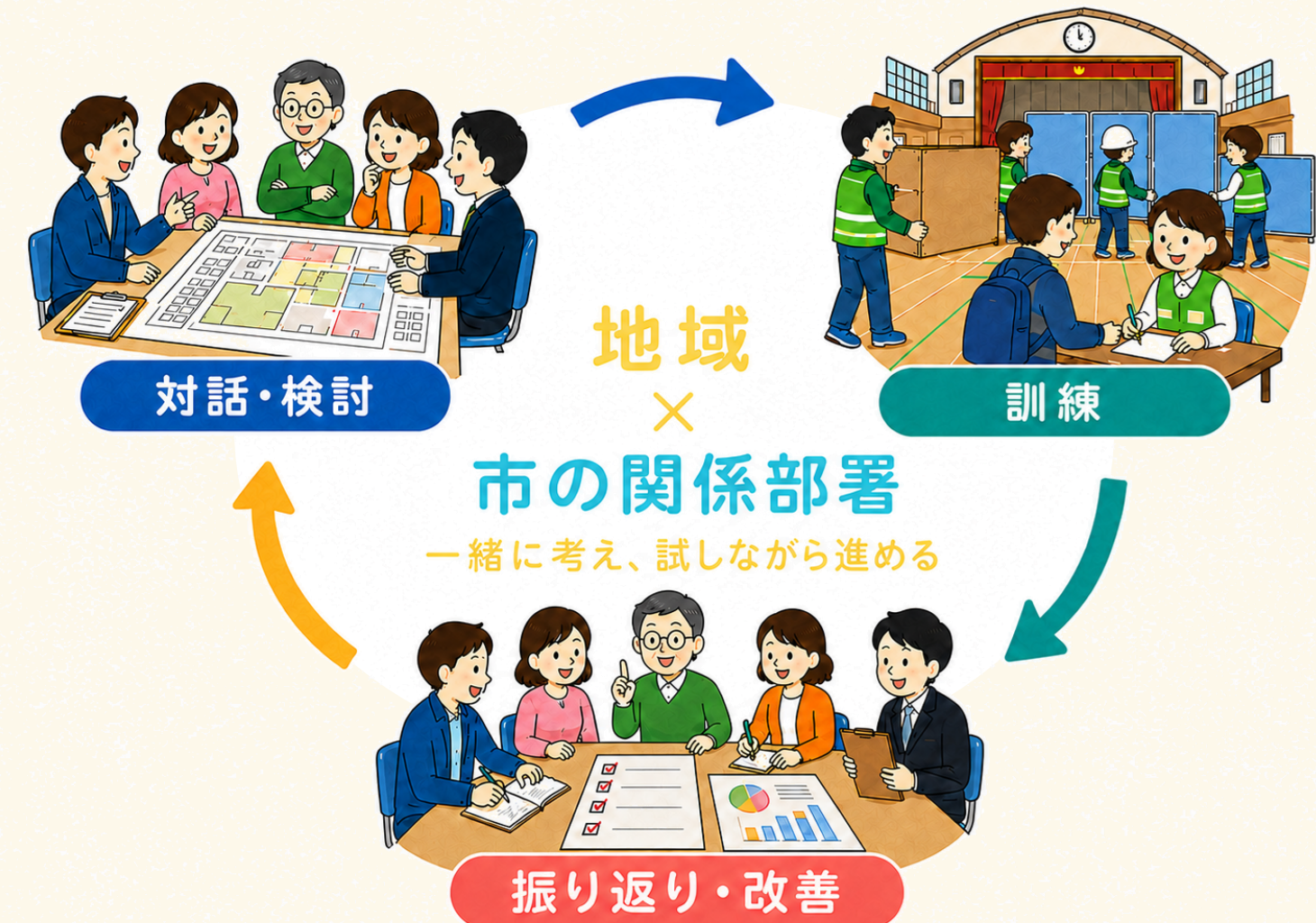
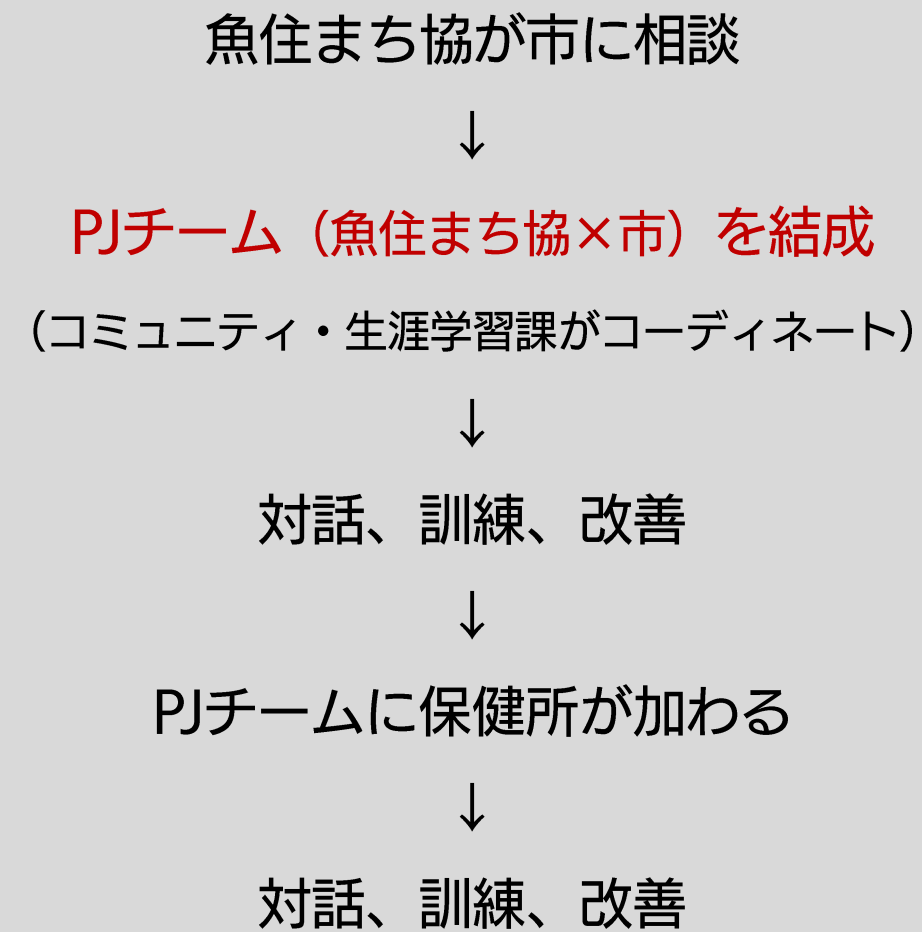


それぞれの力を持ち寄ることで、どんなことができるようになったのか

地域の困りごとを、対話と訓練で具体的な備えへ

< 魚住まち協 × 市（総合安全対策室・教育委員会・福祉局・保健所・コミュニティ） >

【取組の流れ】



避難所開設の手順や役割が、対話と訓練を通じて具体化した

まち協が学校と企業をつなぎ、子どもの学びを豊かにする

<林まち協 × 林小学校 × 企業10社 × 市>

【取組の流れ】

林まち協が企画・提案 ⇄ 学校と調整



市が企業をリストアップ

まち協と市で企業訪問（企画説明）

（コミュニティ・生涯学習課がサポート）



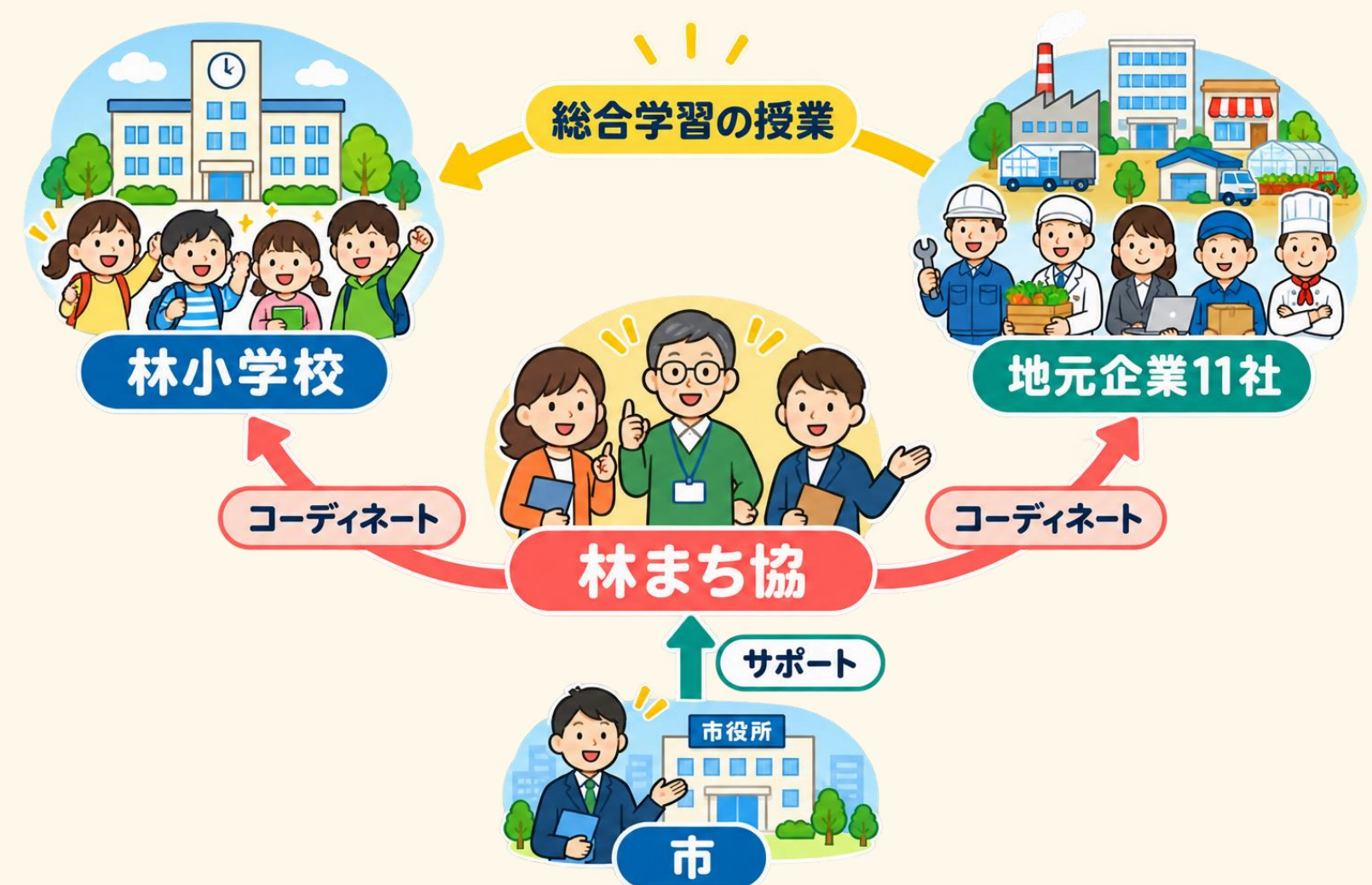
企業10社が授業内容を先生に提案



先生と企業で授業内容を調整



総合学習の授業



地元企業の強みが、子どもの学びと地域の接点につながった

まち協内で話し合い、実行につなげている

	魚住・防災の取組	林・子どもの学び
出発点	地域の困りごとを何とかしたい	子どもたちの学びを豊かにしたい
まち協の役割	自ら実践する役割が中心	コーディネートする役割が中心
行政の役割	コミュニティ・生涯学習課がPJチームをコーディネートし、 分野を越えた関係部署の連携 を支える	企業候補の選定、企業との調整、資金面（あかし共創プラットフォーム市民提案助成金）を通じてまち協を支える
進め方の特徴	小さく始め、実践の中で関係者や取組が広がる	林校区以外の企業にも声を掛け 、その後、企業と学校が対話をしながら授業内容を検討
生まれた新しい価値	地域の経験と行政の専門性が合わさり、地域と市と一緒に考え、試す機会が生まれ、庁内連携や市の運用改善につながった	企業の強みが、子どもたちの学びに。子どもたちの新たな学習機会と、企業が地域に関わる機会が生まれた

この実践をヒントに、これからの地域を考える

地域のありたい姿と必要なことから、まちの役割・存在意義を考える

① 地域のありたい姿を描く

10年後、どのような地域であってほしいか



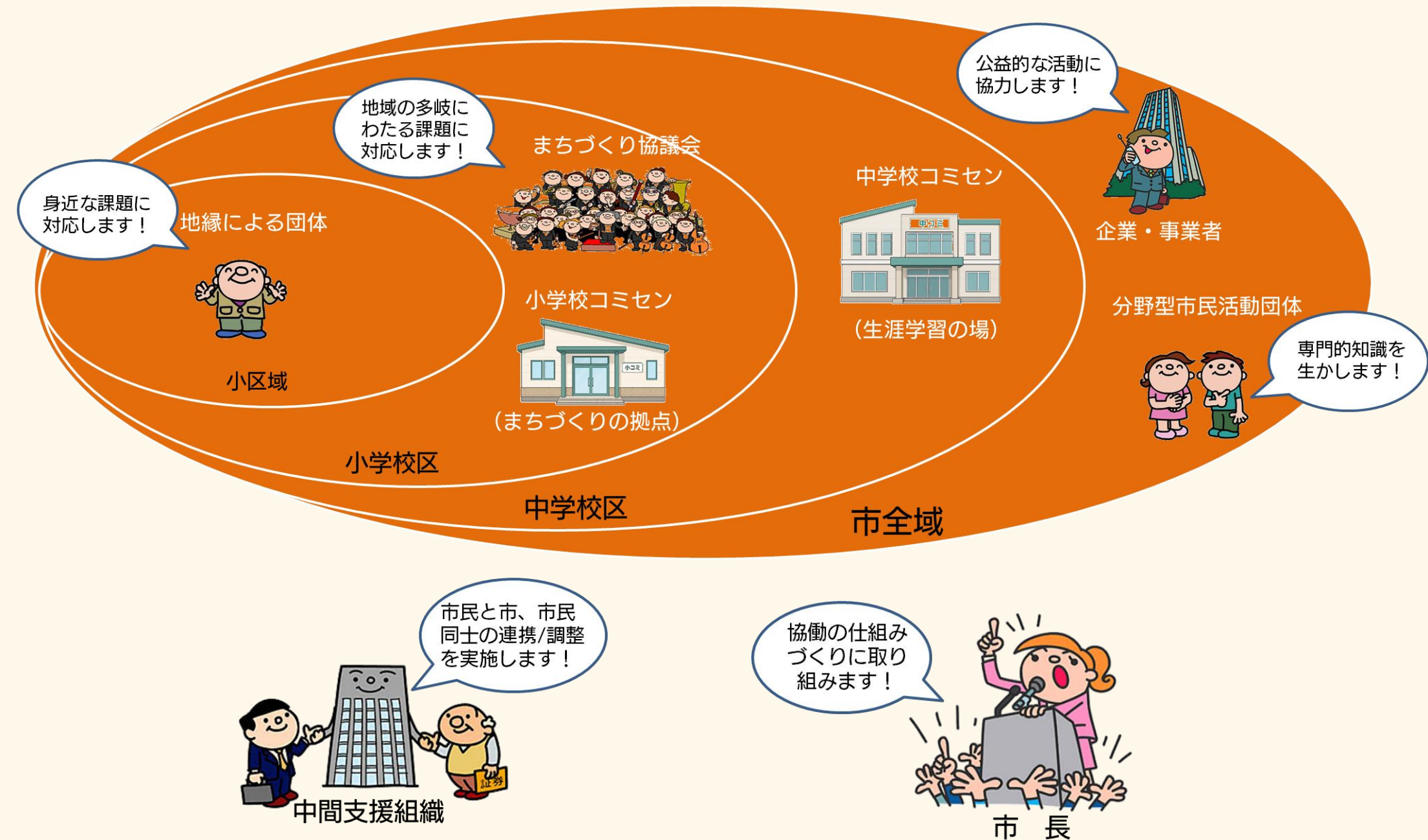
② 実現に必要なことを考える

どのような活動やつながり、仕組みが必要か



③ まち協の役割・存在意義を考える

地域にあるさまざまな力を踏まえ、まち協の強みや、他の主体との関わり方を考える



まち協の役割を先に決めるのではなく、まず、地域のありたい姿から考える

問1：10年後、こうなっていたい、こんな状況になってたら良いなと思うことは？

- これからも大切にしたいことは？
- 今よりも、どんな人や団体が関わっていると良いですか？
- その人たちと、どんなことができれば良いですか？

例えば、第1回の意見と2つの実践をヒントにした、未来の場面の一例

「やってみたい」が、周りの応援で形になる



子ども・若者の提案を、
地域の人や企業と一緒に実現する

できる範囲で関わることができ、活動が続く



得意なことや都合に合わせて、
世代や立場を越えて力を持ち寄る

自分の思いも含めて、自由にお話してください
(未来の地域の風景を描く)

描いた地域の姿から、必要なことと、まち協の役割を考える

問2：その姿に近づくために、どんなことが必要？

- 今ある人・活動・場所・つながりで、生かせるものは？
- 新たに必要な活動やつながりものは？
- どんな場や仕組みがあると実現できそう？

問3：まち協の役割・存在意義とは？

- まち協の経験や強みを生かせることは？
- 他の人や団体につなぐこと、一緒に取り組むことは？
- 続けていくために、どんな仕組みや支えが必要？

Slide 15 | 今日描いた未来を、次の10年の実践へ

令和8年
7月23日

第1回：これまでの成果と課題について

この10年で見えてきた成果や課題を整理する。

令和8年
9月29日

第2回：次の10年に向けて、どのような協働のまちづくりを目指すのか

第1回で整理した成果と課題を踏まえ、これからの協働のまちづくりで何を大切にするかを考える。

令和8年
10月19～23日

タウンミーティング：これからの協働のまちづくりのあり方を考える

まち協や自治会の現状について、気になることをみんなで話し合い、これからのあり方を考える。

令和8年
12月頃

第3回：小学校区単位のまちづくりのあり方

第2回会議とタウンミーティングで整理した考え方を踏まえ、まち協の役割や、地域を支える仕組み・支援を考える。

令和9年
2月頃

第4回：提言まとめ

次の10年に向けた方向性を整理する。